

廣瀬勘一郎PGを偲んで



大谷 透 (大阪西南RC)

大阪西南RCは来年の5月28日に創立45周年の記念式を予定しています。その時にはチャーターメンバーでもあられ、且つ西南RCのためばかりでなく、クラブの枠を超えて、ロータリーのために多大な貢献をされて来られた廣瀬さんに感謝状を贈呈し、顕彰しようと考えていた矢先の訃報でございました。残念でなりません。

私は常々、廣瀬さんの「情の深さ」には、頭の下がる思いを抱いておりました。ご自分がRCの会長やガバナーをなさった時に、協力してくれた人々に対する丁寧な謝意の表明の仕方や、悲しい思いをしている人に対する、心のこもった気配りに、心打たれた会員も多かった事と思います。絶えず和やかなロータリアンの香りを放っている廣瀬さんは、私にとっては敬愛すべきロータリアンの範例でございました。

米寿を迎えられたときに『大阪西南ロータリークラブと共に歩んだ歴史』と題したロータリーライフの集大成とも云うべき六頁に及ぶ「思い出の文」を執筆し、ガバナー活動も含めて、自分がロータリー生活をいかに楽しんだかを披露されました。又、昨年2月には、眼の不自由さを押して人生の集大成とも云うべき「日本海軍の歴史」と題した写真入りの小冊子を執筆され、例会で卓話されました。日本海軍が自分の人生にどのような影響を与えたかと言う視点から書かれたもので、単なるご自分の業績の羅列ではなく、歴史の流れの中で自分を見つめようとする廣瀬さんの人生観が語られており興味をそそられました。その中で次の2点が深く私の心をつかえました。

1つは井上成美 海軍大将の決断です。国が滅亡してしまう前に少しでも早く戦争を終わらせたいと願い、戦争終結に尽力された井上大将は 戦艦大和が出撃する時に「戦後の日本国の再建に、必ず役立つであろう優秀な若い海軍士官達を、道ずれにするには忍びない」と、若い士官達を乗船させなかったのです。当時24歳であった若き廣瀬勘一郎 海軍士官は、その事を深く心に受け止められたようです。終戦後は家業を継ぎ、自らの職業に精励し、会社を発展せしめ、職業を通じて社会に奉仕をすと云うロータリーの「職業奉仕」の理念を立派に実践し、結果として 井上海軍大将の期待通り 日本国再建の一翼を担われた事になったのでございます。世代の違う私には少し違和感のあるロータリーソングの歌詞の一節「御国に捧げん、我らの生業」が廣瀬さんにはぴったりはまる と感じている次第です。

2つ目は廣瀬さんが母校 旧大阪商大の庭に建立された「戦没学友の碑」の写真を見ての感想です。生き残って戦後復員した方々の中には「生存者の後ろめたさ」に付き纏われる人が多くいます。自分よりも生き残ってしかるべきだと思われる多くの同僚が戦死して帰らぬ

廣瀬勘一郎パストガバナー

2013年12月16日ご逝去(享年92歳)

- 1968年 大阪西南RC入会(チャーターメンバー)
- 1985~1986年度 会長
- 1990~1991年度 RI第2660地区ガバナー
- マルチプル・ボール・ハリス・フェロー
- 米山功労者マルチプル

人となってしまったのに、どうして自分は生き残ったのだらうと云う、生き残って帰国した事に対する罪意識です。その感情はしばしば健全な精神をも蝕んでしまいます。そのような精神状態とどう向き合い、どう関わり、どのように癒しの手段をこうじて行くか、その精神的トラウマとの関わり方に於いて、廣瀬さんは実に誠実であられたと云う事を、この「戦没学友の碑」は雄弁に物語っています。

この「日本海軍の歴史」の小冊子に付随して太陽電池で腰を振る《雪だるまのおもちゃ》を貰われた方も多かったと思います。そのおもちゃは今も私の家の窓際にユーモアたっぷりに腰を振っています。私はその踊る雪だるまを見たとき、廣瀬ご夫妻の18番「おかめとひよっとこの踊り」を連想しました。ロータリーの国際交流で、テキサスやシンガポールの姉妹クラブを訪問した時、懇親会場が一番盛り上がったのは廣瀬御夫妻のこの踊りの時でした。文化背景の異なる外国のロータリアンも、共に抱腹絶倒。実に楽しい交流と親善の一時となった経験があったからです。しかし、その《雪だるまのおもちゃ》に込められた廣瀬さんのメッセージとは、口数の少ない御自身の説明から、次のような事だと理解致しました。即ち『今、自分は九十歳を過ぎ、目も耳も不自由になったが、この《雪だるま》は、受けた光のエネルギーを利用する力がある限り、動き続けている。同様に、自分も与えられた生命の恵みが続く限り、ロータリアンとして精一杯出来る事をしてゆこうと思っている』。それを例会出席で示されました。

晩年は脳梗塞から発語の不自由さ、又、黄斑変性による視力の低下、高齢による難聴、更には前立腺癌に加えて、悪性リンパ腫と、大変な病と連れ添った生活でしたが、沈んでしまいそうになる気持ちに打ち勝って、最後まで笑顔で、ロータリーをエンジョイされたのは、よき伴侶とご家族に恵まれたおかげと絶えず感謝しておられました。3週間前まで、元気に例会に出席されていたお姿は鮮やかに会員一同の目に焼き付いています。

廣瀬さん、学ぶべき大きな足跡を残して下さいまして有難うございました。どうか安らかにお休み下さい。御霊の平安を心よりお祈り申し上げます。